

WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN 2019-2020



名古屋名南ロータリークラブ

- 承認/1991年3月8日 ● 例会日/火曜日・PM6:30 ● 例会場/名古屋マリオットアソシアホテル
 - 会長/児島 徳和 ● 幹事/中村 勝 ● 会報・雑誌・広報委員長/末永 祐敬
 - 事務局/〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル2202号
- TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail info@meinan-rotary.com

2019-20年度 国際ロータリー会長 マーク・ダニエル・マローニー

4RC合同例会

於:名古屋マリオットアソシアホテル 16F「アイリス」
12:00~13:40 ホスト:名古屋東南RC

第1331回

2020年2月5日(水) 晴 第26回

～ 平和と紛争予防/紛争解決月間
(2/23 ロータリー創立記念日・世界理解と平和の日) ～

斉 唱 君が代・奉仕の理想・
手に手つないで
出 席 会員 58 名 (出席率算入人数 34 名)
出席 22 名 出席率 64.71%

会 長 登 壇

名古屋 南 RC 会長 斎藤 清治さん
名古屋東南 RC 会長 中島 美恵さん
名古屋瑞穂 RC 会長 関谷 俊征さん
名古屋名南 RC 会長 児島 徳和さん



会 長 代 表 挨 拶

■名古屋東南 RC 会長 中島 美恵さん

皆さま、こんにちは。本日は沢山の方にご出席いただきまして本当にありがとうございます。まず、講師の先生に急なご都合がありましてスケジュールを変更させていただきました事、深くお詫び申し上げます。また、例会前に名古屋南RCの会員でいらっしゃいました長苗克彦さんの黙祷がありました。実は長苗さんとはもう30年以上前からプライベートのお付き



合いを夫婦でやっておりました。1月29日(水)に突然の悲しい報せを受けたわけです。今日この場で私がこの話をするのも何かの巡り合わせではないのかなと思っております。謹んでご冥福をお祈り致します。それでは、会長さんのご紹介を改めてさせていただきます。名古屋南RCの会長さんでいらっしゃいます斎藤様です。名古屋瑞穂RC会長の関谷様です。名古屋名南RC会長の児島様です。私は名古屋東南RCで会長をやっております中島です。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、何を話そうかずっと悩んでおりまして、差し障りがあるかもしれませんが、考えたあげくにロータリーにおける女性会員の誕生というお時間をいただきます。今から115年前、1905年(明治38年)にロータリーの歴史が始まりました。1905年2月、ポール・ハリスを中心に4人の男性によってスタートしたRC。長い間、ロータリーの定款と会則にはRCの会員身分は男性に限ると性別が定められていました。1989年、ロータリーの歴史が始まってから84年、IR定款に変更が加えられ、ロータリーの全てにおいて男性に限る規定が削除になり、世界中のクラブ、地区で女性がロータリアンになる事を認められました。日本で最初の女性会員は北海道、現在の2500地区清水RCの松田郁子さんです。1989年、日本では昭和から平成になった年です。消費税が竹下内閣によって3%導入された年でもあります。またソウルオリンピック開催であるとか、美空ひばりさんや手塚治虫さんも亡くなられた年であります。

それでは今日お集まりのRCでの女性会員について。名南RCさんでは1991年2月19日に創立されて、既にその時から女性会員が4名入会されたという事です。現在は9名いらっしゃるという事です。では我が東南RCの女性会員第1号は、1998年、今から22年前の事です。お医者様が第1号だったという事です。現在12名の女性会員が在籍しております。2760地区では女性会員は少なだらかに上昇していますが、会員数は減少気味です。

それで名古屋東南RCで初めての女性会員入会に関して、その時の幹事さんに経緯をお尋ねしました。当時、女性会員入会に対して会員の反対が凄かったという事らしいです。それでその当時の会員さんにアンケートをお1人ずつされて、反対される方にはお話をして女性会員第1号が誕生したというご苦労があったとお聞きしました。女性が入会して何か変化がありましたかとおたずねしましたら、特に無しという事でした。女性の立場から意見はあれこれとあるでしょう。ちょっと耳が痛い事を言いますけれども、男性だけで親睦を図りたいのですか?配偶者

への配慮ですか?人数を減らす為の調整ですか?財政状況をよくする為の事ですか?私個人的にはロータリーは男性社会だと思っております。それはそれで嫌ではなく、むしろ男性主導でやっていただきたいと思っております。4名の歴史を作られたこのお写真の方達は どう思っておられるでしょうね。皆さま、いかがお考えでしょうか?僭越ながらお時間をいただきましてすみませんでした。以上で会長挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

幹 事 報 告

名古屋名南 RC 幹事 中村 勝さん

1. 次回2月11日(火)は祝日の為、休会ですのでお忘れなきようお願い致します。
2. 2月18日(火)は創立記念例会となっております。場所はあつた蓬莱軒さんの陣屋本店で、時間は18時30分ございますので、お間違えのないよう宜しくお願い致します。

ニ コ ボ ッ ク ス

- ◆ 本日の4RC合同例会、東南RCの皆様大変お世話になります。

加藤 英敏さん 中村 勝さん 川辺 清次さん
谷川 弘高さん 細井 俊男さん 川瀬 悟さん
朝比美和子さん 中山 伸夫さん 大橋さなえさん
神谷 大徳さん 江松 央統さん 上田 正秀さん
坂田 信子さん 三浦 和人さん 犬飼りさ枝さん
森田敏二三さん 日下智重子さん 福井 佳亮さん

本日合計 23,000 円 累計 1,101,000 円

講 演

■講演者紹介

浜先生は皆さまご存知のように正義の味方でございます。本日は疾風のように現れて疾風のように去っていかねばならないとの事でございます。ご質問のお時間はお取りできませんが、お時間までお話しいただきます。それではご登壇をお願い致します。皆さま、拍手でお迎えください。

■同志社大学大学院 ビジネス研究科

教授 浜 矩子氏

「グローバル経済の曲がり角：向こう側で待ち受けているものは何？」

ご紹介に預かりました、浜矩子でございます。本日はこの場にお招きいただきまして、誠に有難く嬉しいことです。限られた時間でございますが、本日のテーマ「グローバル経済の曲がり角、向こう側で待ち受けているものは何か？」について皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

ところで、私がこのような場にお招きをいただきましてお話をさせていただくということになりますと、皆様におかれては、定めし「いわゆるアベノミクス」、「私的に言えばアホノミクス」の悪口をひたすら言い募るのであらうとご推察かと思ひます

が、もしもそのようにご推察であるとすれば、その通りでございますと申し上げたいところでありますが、本日は時間の制約もございますし、ちょっと自重せねばならぬというふうに思っていますが、必要に応じてその辺もちょっと織り込んでいきます。

まあというわけでグローバル経済の向こう側、曲がり角、その向こう側で我々を待ち受けているものは何だろうということですが、ずばり申し上げて、私は三つのものが虎視眈々と待っていると思っております。ものと言うより「DEで始まる三つの言葉」が今我々を待ち受けていると思います。3つのde言葉ですが、一番目のde言葉は、deグローバルあるいはdeグローバル化、二つ目のde言葉は倒産する、破産する、破綻する、を意味するdefault、三つ目のde言葉は depopulation 人口減少です。すぐこの角を曲がると、そこに「de global、default そして depopulation」という三つの問題が我々に重くのしかかってくる、とそんな感じのイメージを持っております。

まず最初のde グローバル化についてですが、要するに我々は「グローバル化、グローバル経済化の流れは、これからも変わることの無い帰らざる川だ」と思い込んできたわけですが、ところがここに来てこのグローバル化という現象が逆流し始めているのかもしれないということです。このde globalあるいはde globalizationという言葉は、昨年のかかなり早い時期あるいはもうちょっとそれより前から英語メディアには登場し始めていましたが、意外にまだ日本のメディアには出てきておりません。要は日中間、米中間の通商摩擦に見られるが如く、グローバルサプライチェーンもだんだん縁切れになっていき、なんと今回この新型ウィルス問題も出て、一段と物理的にグローバルな経済活動の流れが切斷され、「連鎖と融合のグローバル時代が、分断と排外の閉鎖時代になっていってしまうかもしれない」という懸念がぐっと強まって、そういう意味でこのdeグローバル化という現象とどう向き合っていくかが、今年及び今後においてかなり大きなテーマになってくると考えます。そこでこのdeグローバル化というのが日本のメディアに登場し始める段階では、単純に言えば「非グローバル化」と訳されることになると思われます。しかしどうも私は非グローバル化と言っただけでは、いわばdeグローバルイゼーションという言葉が持っている響き、緊張感、インパクトがどうもいまいち感じられず、何か別の字を当てられないかと考えてみました。非でなければ、不はどうだろう。不可能の不ですね。グローバルではなくなるという意味での不グローバル化ではどうかと思ったのですが、これは非グローバル化よりはもう少しインパクトや引っ掛かりは感じ取れますが、それでもまだちょっと迫力が足りないと思われます。そうした中でふと思いついたのが、「非」がダメで、「不」もダメならば、残るは「破」しかない、破グローバルとしたらどうだろうと考えてみました。この破グローバルの破に破壊の破、破滅の破、破綻の破、破れるという字を当てると、迫力が出てくると思っております。ビリビリと音を立てて、グローバルな人、物、金のつながりを引き裂いていく力が今や働いてしまっているということです。グローバル時代は実は誰も一人では生きていけず、誰もが誰かのお世話をし、誰もが誰か



の世話になり、人類が本当の意味で支え合い分かち合うことのできる時代に、我々がうまくハンドリングすればなるはずでございます。しかしそのグローバル時代の関係性というものをぶち壊して打ち破っていくという、そういう力学が非常に強く働き始めてしまっているということ、この破グローバルにご用心ということです。ひょっとするとこの破グローバルという言葉は、アホノミクスに勝るとも劣らずいいのではないかと思います、その普及に努めようとしております。

みんなが自分さえ良ければという方向に突っ走っていく中で、支え合い分かち合いのグローバルなつながりが破られていく破グローバルというテーマとの関わりで申し上げておけば、今の安倍政権において、アホノミクスと私は呼んでおりますが、彼らはいろいろ問題はあるけど別にグローバル化に「待った」をかけるわけではないのではないかと思います。方も少なくないと思いますが、それはさにあらずだと思えます。全ての根拠のご説明は本日は省略して結論だけ申し上げますと、彼らが目指すところは21世紀版の大日本帝国の構築であるという風に私は確信してやみません。それはご本人の言葉から確認できるのでありますが、彼らは決してグローバルな連鎖と融合をうまく保持していこうという側に立つ人々ではなく、究極の国粋集団であると確信しますが、それはそれといたしまして、以上が1番目のde言葉、de globalに関するお話でした。

2番目がdefaultという言葉で、ご承知のとおり個人の破産、国々の破綻、企業の倒産、を意味する言葉ですが、このdefaultの危機というのが、巷で意識されているよりもグローバルワイドに深刻な問題になっていると私は思います。何しろもうほぼ金利というものは存在しなくなり、お金を借りるのになんらコストが発生しないという状況の中で、ふと気がつけば多くの国々の財政が火の車である状況は、もう我々はよく承知しております。実は国々の財政だけではなく、企業もやたらに事業債を発行して借金を重ねるという状況がございます。日本において企業部門は資金超過で内部留保を山のように貯めているということですが、それもここに来て業績が低下するなかでこの資産過剰状況もだいたい縮減していますし、家計もまた多くの国々において、ふと気がつけば借金ポジションになっていることがあります。非常に重苦しい借金の山というのが、この地球津々浦々に出現してしまっているという現状がございます。これはいわば政策がもたらした借金の山で、非伝統的と言われるような金融政策により、余り金の大風呂敷を広げてしまいました。こうした中で金融というものが非常に低温化し、マイナス金利も当たり前という、今は不条理金融の時代になっていると思えます。金を借りることに伴って何が起こるのかを人々が忘れてしまう状況になっているわけで、超低温金融の中でみんなすっかりそれが当たり前になってしまっているのが今日この頃です。これが何らかの原因で、角を曲がった向こう側に再び金利が正常化していくという状況が待っているとすれば、この借金の山というものはものすごい勢いで地球経済を押しつぶしにかかってくるわけで、倒産・破産・破綻がもう連鎖的にダダダッと起こるという状況にいつ陥ってもおかしくないということです。

そういう危うい時に、先ほどの破グローバル状況

で国と国との間がぶち切れになっていることで、いずれの国も自分の国のことしか考えない中でこのデフォルトの連鎖が起こることになった時、果たして国々は自力でそのような金融恐慌を回避できるのだろうかと危惧します。そういう時こそ連鎖と融合、支え合い分かち合いが必要ですが、それがなくなってしまっている中で、このデフォルトだけが連鎖していくとなると、これはなかなか怖いということです。ちなみに実は日本国憲法の中に、そういうことをしてはいけないということが書いてあります。今チームアホノミクスの親分が改憲にものすごく力を入れておいでですが、日本国憲法の前文に21世紀グローバル時代をどう生きるかということが書いてあります。一言だけご紹介申し上げますと日本国憲法前文の最後の下りのところに、「いずれの国家も自国のことのみに専念して他国を無視してはならない」とあります。これを誰に一番読ませたいかといえば、おそらくここにいる我々全員が同じ人の顔を思い浮かべていると思います。今のように借金の山があちこちにうず高くなってしまって、そのことが金融恐慌をもたらすことを回避しなければならないという人類的目標・課題がある中では、いずれの国家も自国のことのみに専念して他国を無視しては、決してこの大惨事を避けて通ることはできないであろうと思うわけです。というわけでこのdefaultが、しかもdeグローバル化の中で世界を覆うということに、今是非とも目を向けご用心いただきたいと今思う次第です。

話はだんだん、どんどんと陰々滅々として参りまして、なかなかつらそうなお顔の方が目立ってまいりました。これからさらに最後のdeがもっと気の滅入るテーマなのでお楽しみにもと思いますけれども、最後のde、depopulation でございます。人口減少という話ですが、この少子高齢化と言えば、我々はすっかりこれがもう日本のお家芸、日本が非常に深刻なテーマとして抱え込んでいる話題だというふうに認識をしておりますけれども、実はそうでもないであります。人口減少、少子高齢化は日本だけの問題ではなく、むしろここに来て人口が減っていくという事実に向き合っている国が多々あるというのが、これもまた今日のグローバル風景の、重要で見落とすべきではない一側面だと思います。中国については皆様よくご承知の通りでございます。一人っ子政策の結果として人口が非常に頭打ちになって、高齢化・少子化が進んでいるわけですが、それでも実のところは中国と日本だけでもありません。ヨーロッパでも今、この人口減少という問題が非常に深刻なテーマとして持ち上がっています。クロアチアという国が現在 EU 欧州連合の議長国をやっておりますが、EUとして考えなければいけない問題として、このdepopulation を掲げております。このクロアチアが非常に急速な人口減少で、国の存亡がかかる問題となっておりますし、他の多くの諸国でも同じような問題に向き合っております。出生率がどんどん下がっていることに加え、欧州統合が進む中で同じヨーロッパの西側の方に、どんどん若者たちが移住をしてしまうという問題に向き合っています。イタリアでもスペインでもポルトガルでもイギリスでもこの人口の伸び悩み問題、あるいは減少問題がのしかかってきており、とりわけ出生率の著しい低下がこの西ヨーロッパ側の国々では大きな問題に

なっています。

この人口減 depopulation という問題をどう捉えるかですが、果たしてこれは本当に問題なのか、なぜそんなに depopulation を嘆かなければいけないのかについては、私はちょっと違和感がございます。というのも、地球環境がこの地球経済の膨張のし過ぎによって非常に危機的な事態に陥っており、温暖化で地球は本当に絶大なる環境異変にみまわれている。そしてそうした地球環境のことを考え、地球経済の膨張には歯止めをかけるべきだという議論もされており、「化石燃料を使わないようにしよう」などということ言っている一方で、「人口が減るのは問題だ。経済を成長させ続けるためには、人口を減らせてはならない」というような議論があるのは辻褃の合わないで、人口減少は駄目だと思ひ込むことがむしろ危険なのかもしれません。ここでまたこの世の中が破グローバル、deグローバル化した状況で国々がそれぞれ自国の人口減少を心配し始めると、なかなかきき臭いと言いますか、厄介な行動をそうした国々の中に引き起こしてしまうのではないかと思います。人口を減らしてはならぬというので、「産めよ増やせよ」とやたらに女性は家庭に引きこもれとかいう話になるかもしれませんし、国境を越えた人の奪い合いというような事態にも発展しかねません。現実にはポーランドでは、海外に出稼ぎに出ている人たちにどんどん帰って来いということをお願いしています。あるいは他の国々の能力ある人材をやたら引っこ抜こうとするような展開になると、これはまさに破グローバルの力学がそこからさらに深刻化していくことにもなりかねません。

さらにはどうしても人口が頭打ちになる中でも経済を成長させなければならないとなると、実際に存在している人々の生産効率を上げる他はないと言うので、労働生産性を引き上げるというプレッシャーがものすごくかかってくることになります。お国のために一億総活躍してください、効率よく総活躍してくださいという話になってくることになれば、人々は非常に厳しいところに追いやられてしまうと思います。この人口減少 depopulation という問題が深刻化し、そのことを巡ってもこの de global、破グローバルの中で、国々がお互いに知恵を提供し助け合うことをしなくなりますと、まさに国々の間で生産性競争というようなものが起こり、我々はそのすごい勢いで AI やロボットに言われるままに、猛烈なペースで仕事をするようなことに追い込まれてしまうかもしれない。今やたらに「ポイントは生産性にあり、世界中で賃金が上がらないのも生産性が上がらないせいだし、人々の生活が豊かにならないのも生産性が上がらないからだ」として、とにかく生産性を上げるべしという号令が世界中の政府でかかりがちです。けれども本当に生産性というのはそんな魔法の杖であるのか、生産性が上がると本当に賃金が上がるのか、については大きな疑問があります。

企業が生産性を上げようとするのは生産コストを抑えるためであり、全ての企業経営者が、生産性を上げた分だけ賃金を上げるなどという素晴らしい発想の持ち主だとは到底言えないと思います。ちなみにカールマルクスの資本論の中においては、労働生産性が上がったからといって賃金があるなどということは決してなく、「8時間でできたことが4時間で

できるようになったからといって、4時間でお家に帰っていいなどと資本家は決して言わない」と明言されています。この生産性という言葉は本当に要注意で、果たして人間を本当に幸せにする言葉かということが大いに気になりますが、そのような生産性革命の旗が depopulation が進行する中で振りかざされるということになりますと、なかなか怖い世界に我々は引きずり込まれてしまうかもしれないと思います。ここにおいでの方の皆様の多くは、おそらくチャーリー・チャップリンのモダンタイムスという映画をご存知だろうと思いますが、あの映画の中ではチャップリンさんがベルトコンベアの脇に張り付いて、ご飯を食べる間もなくベルトコンベアのスピードに合わせて仕事をするシーンがございました。depopulation の下で、そして de グローバル化した状況の下で、default を回避するがために、モダンタイムスの働き方を人々が強いられることがないようにしなければならないと思います。

2020年の冒頭に当たりまして、我々は三つの de 言葉に大いに注意していかなければならないと申し上げましたところで、早くもちょうど残り時間が40秒ぐらいになってきましたので、ここで残念ながら私の話を終わらせていただきます。どうもお付き合いありがとうございました。

懇 親 会

■次期ホストクラブ会長挨拶

名古屋瑞穂 RC 会長 関谷 俊征さん

皆さま、こんにちは。名古屋瑞穂RCの関谷と申します。本日は4RCのいわゆる合同例会という事で、名古屋東南RCの中島さんをはじめ、会員の皆さまには大変お世話になりました。正直申し上げて、あまり明るい話ではありませんでしたけれども、折に触れ大変興味深い話をお伺いする機会を作っていただいて、有益な例会であったとは思っております。最近ではない、4RCの合同例会の形、計画変更などありましたので、きっと色々ご苦労をされたのではないかと考えております。

ご案内の通り、合同例会は4つのクラブがそれぞれ持ち回りでホストクラブを務めて開催するという事になっております。その時々でクラブの色々な考えで計画をするというのも、この合同例会の大きな特徴ではないかと考えております。来年は私共名古屋瑞穂RCがホストクラブとして、この4RCの合同例会を開催させていただく予定です。今からじっくり準備をして、皆さまに少しでも有益な例会となるよう準備を進めていきたいと考えております。来年は私が会長ではありませんので、今は割と気軽にお話をさせていただいておりますけれども、それはそれとしまして、明日から一生懸命準備をして、来年の合同例会に向けて努力する事をこの場で固くお誓い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。

■閉会挨拶

2008-2009 年度地区ガバナー

名古屋東南 RC パスト会長 片山 主水さん

ご挨拶という事で少しお時間をいただきました。私も後期高齢者です。何かをちょっとそれに付け加えますと、晩期高齢者にすぐなるのですね。そんな

事で、記憶も定かでない、すぐに飛んでいく。今、言われた事も何だったかなという事なのですね。それで書いた物を持ってきたのですが、それを見ても中々話がまとまらない。そんなわけで支離滅裂としたご挨拶になるかもしれませんが、よろしくお願いします。

私はこの場に立ったら、1つどうしても申し上げなくてはならない事があるのです。それは、今から12～13年前にガバナーをやらせていただいた時に、普通はガバナーを排出したクラブが全ての組織をして、担当者や役員を決めて自分の力でやるのですね。ところが、その時だけは私もどのように心が動いたのか分かりませんが、南RCさんも一緒にお願いします、それから瑞穂RCさんも1つお願いします、ご協力をいただけませんか?その時には既に名南RCさんにもお願いをして、そしてガバナー事務所を組織するのに人数を出していただいたのです。南RCさんには一番重要な所で幹事、親クラブとして出していただき、それから瑞穂RCさんにも近藤ガバナー補佐を出していただいた。名南RCさんには児島さんにやっていただきました。そういう事でお世話になって、当時としては多分東南RCで1つの組織として出来たと思います。

その10数年前に東南RCからも1人ガバナーを出しているのです。ご承知の方も多いかと思いますが、犬飼さんという名鉄観光、名鉄本体の副社長をやっておられた人ですが、1年ガバナーをやられて、そして6月30日に皆さまとこのように役員と各クラブに会長さんと幹事さん、それから地区の委員長さん、もちろんガバナー補佐の方にも集まっていたので、そこで最終の打ち上げ懇親会をやったのです。その時までは非常に元気で何杯もお酒を飲まれたのです。そして8月になって突然亡くなられた。東南RCとしてはパストガバナーが出来た。これからは東南RCの格が上がるぞというくらいの思いでガバナーを出して協力したわけですが、それが済んですぐに亡くなられたものですから、そのまた10年目位にもう1人ガバナーを出すなどという財政的な関係からいっても、それから気力からいっても、もうその時に使い果たしているものですから、そういう危惧が多少私はあったと思います。

そういうわけで、この南RCを親クラブとするグループ全体として、私のガバナー年度を支えたいと思いましたし、そのようにお願いしました。そして皆さまから広く協力していただきガバナー年度を過ごす事が出来て、それで今、私がここに立っているわけです。それで恩返しを全然してないわけなのです。ようやく10年経ってそういう思いが出て来て、ちょうどご挨拶の機会に恵まれましたので、そういう話をするといいかんと思って来たわけです。この場をお借りして、お礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

本日の合同例会、非常に良かったと思いますが、17階で受付をして16階の例会場まで移動してくるのは新しいやり方ですね。びっくりしました。名古屋西RCを筆頭とする4RC位のグループがある。10年20年やっておりますと、西RCさんはどういう風にやっておられるのか、ガバナーをどれだけ出されたのだろう。それから会員数がどれだけいるだろう。南RCを筆頭とするこのグループと絶えず頭の中で評価があるのです。知らないうちに競争みたい

なものがある。

そこでガバナーをやったものですから、ガバナーの人数はどうだろうか。南RCを筆頭とするこのグループと、西RCを筆頭とするグループとでガバナーはどちらがどうでどうなっているかという事を見ますと、南RCさんは随分と早い時期にガバナーを2人出されているのです。そういう事があつたりするので、是非とも名南RCさんももう30年経つので、そろそろガバナーを出していただいてもいいかなという時期であるとは思っておりますが、そういう事でお頼みするわけではないですけども、そういう風に思っております。

こういう4RCの合同例会も単なる親睦だけではなくて共同で奉仕活動をするとか、色々な事があるかと思えます。そんな事も1つ企画していただいたらどうかなと思っております。それでは皆さまありがとうございました。

■ 締めの挨拶

名古屋東南 RC 会長 中島 美恵さん

片山先生、ありがとうございました。本日は沢山の方にご出席いただきまして、本当にありがとうございました。行き届かない事が沢山あったかと思えます。例えば、コンパニオンがいないとか、アルコールのない合同例会など、寂しかったな、物足りなかったなと思われたかも知れません。来年は瑞穂RCの関谷会長が仰いましたので、1年も先なのですけれども皆さま楽しみにしてくださいませ。

最後になりましたけれども、浜先生からコメントをいただいておりますのでちょっと読ませていただきます。「本日お集まりの皆さまへ。誠に火急の用務が入ってしまい、お許しを得て早々に退出する事とさせていただきます。折角頂戴した一期一会の機会に、繋がりを手厚く築くのが叶いませんでした事、平にお詫び申し上げます。浜矩子」といただいております。浜先生のご友人であられる東南RCの会員、ジェイアール高島屋の会長ご夫妻、中山さんのお骨折りでこういう機会を設ける事が出来ました。改めてこの席でお礼申し上げます。本当にありがとうございました。本日はこれで閉会とさせていただきます。



第 1333 回例会 (2月27日(木)) のご案内

西名古屋分区 I.M.

於：ヒルトン名古屋 4F・5F 16:00～20:00